



いぶき

いぶき 第50号
 発行者 多田 慎也
 編集 患者サービス向上委員会
 香川県丸亀市城東町3丁目3番1号
 TEL (0877) 23-3111
 FAX (0877) 24-1147
 季刊誌 年4回発行
<http://www.kagawah.rofuku.go.jp>

香川労災病院は昭和31年に40床で丸亀市に開設され、今年で57年目となりました。この間、労災疾病への対応と共に地域医療において果たすべき役割を見据え、地域の皆様のご要望にもお応えするため、診療科を増やし病床も増やしてまいりました。今年には救急医療を充実させるために救急棟を増築し、3階にICU 8床とHCU 8床を増床して設置しました。さらに2階には外来がん治療の拠点として化学療法室を設け、1階に広い救急診察スペースを確保し、感染症専用診察室も整備しました。このために当院は



いぶき50号記念号に寄せて

香川労災病院 院長 多田 慎也

10床の増床が認可され404床となりました。

一方で地方都市における医師不足や看護師不足など、医療機関の存立を脅かす社会情勢があります。当院においても職員配置に余裕が無く、一人ひとりの頑張りに頼る面が少なからず見受けられます。限られた医療資源を重症患者対応に充てるために、本年7月より夜間救急では、軽症患者や自己都合での夜間受診者から特別料金(時間外選定療養費)を頂く制度を開始しました。こういった情報も既に本誌でご紹介させていただいております。



「いぶき」 彫刻家 速水史朗氏作

当院の理念として「働く人々や地域の人々に安全で安心のより良い医療と看護を提供します」と掲げています。そのために、常に最新の良質な医療と看護が提供できる体制を構築するように心がけています。特に皆様からも要望が多い救急医療と共に、がん治療にも責任を果たせる体制整備に努めており、地域がん診療連携拠点病院の指定を受けています。さらに各医師会の先生方との医療連携を推進して地域医療支援病院の指定を受け、掛かりつけ医からの紹介

香川労災病院の理念

働く人々や地域の人々に
安全で安心のより良い
医療と看護を提供します

で受診して頂き、掛かりつけ医に逆紹介をさせて頂くシステムを基本にしています。また開放型病床15床を整備して、紹介医と病院スタッフとの共同診療も行っています。そういった中で特に脳卒中や大腿骨頸部骨折などの患者さんには、急性期から回復期、慢性期病院、リハビリテーション施設から在宅までの、切れ目のない医療提供を可能にするシームレスケアにも取り組んでいます。最近では種々のがん患者さんについても当院と連携医療機関とで情報共有ができるシステムの運用も開始されています。また、連携を深めるために日頃より感染管

理、安全管理、リハビリテーション、在宅酸素療法、在宅ケアに必要とされる手技等に関する研修会も地域の医療スタッフにご案内して開催しています。

医療制度や医療環境の変化は加速してきており、受診していただく患者さんに医療や病院に関するご理解を頂くための情報提供は大変重要であります。患者さんに病院を上手に利用して頂くために、病院の機能と医療に係る制度の変更、さらには病気についての情報や治療の進歩などの情報提供を積極的に行っています。患者さんや地域住民の皆さんを対象に年4回開催している公開健康講座では、身近な病気について専門医が分かりやすい講演を行っています。一方で、受診された際に気軽に持ち帰り頂ける広報誌は、労災病院や医療についての情報を患者さんやご家族とも共有して頂ける資料です。この広報誌「いぶき」は平成13年9月1日に年4回発刊の季刊誌として創刊されました。こ

の名称は、病院玄関前にある速水史朗先生創作のミニメントと同じ名前であり、生き生きとした生命の躍動感が感じられる、として採用されました。また本誌の題字「いぶき」は、当時の院長であった原田英雄先生(名誉院長)の揮毫によるものです。それか

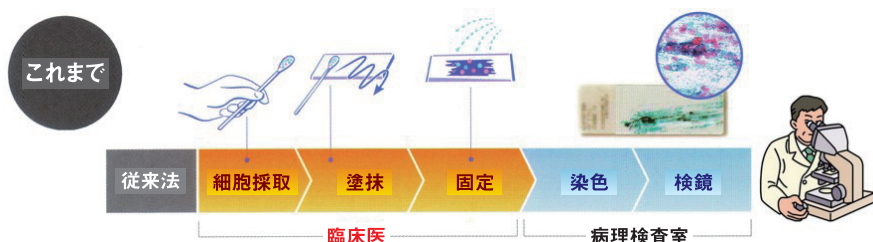
ら12年の時が流れ、節目となる「いぶき」50号が発刊されることになりました。本誌を継続して発刊するために尽力して頂いた当院職員の努力に感謝すると共に、これからも患者さんに役立つ広報誌として、お読み頂けることを願っています。

細胞診断学的検査(細胞診) New Wave(新しい波)

中央検査部長 牟田 幸成

患者さんから採取された細胞を検査する「細胞診」は、がん発見の有効な手段として検診などに利用されています。肺がんの喀痰検査や子宮がん検診などがそうです。特に、子宮頸がんの早期発見には優れていますが、ブラシを使って細胞をスライドガラスに直接塗抹するため、ブラシに細胞が残っていたり、炎症細胞や血液が多く混じって細胞が観察しにくいという問題点もありました。そこで近年、専用の液中に細胞を採取し、装

置で標本を作製する Liquid-Based Cytology 法(LBC法)が開発されました。このLBC法は、米国で開発され、日本の厚生労働省にあたる米国食品医薬品局(FDA)で認可取得後、有用性が認められたことで急速に普及し、米国婦人科細胞診のおよそ90%がLBC法になったと言われています。一方、日本では、保険制度の関係もあり、未だLBCの普及率は10%台です。この検査手法は、細胞を長期保存できることから、あら



ためて細胞を採取することなく、ヒトパピローマウイルス検査を追加できます。また、検査精度も上がることから、患者さんへのメリットは大きいものと考えられます。当院では、子宮頸部細胞検査の中心として、他病院に先駆けこのLBC法を導入しました。なお、米国でのFDA認可、



日本での薬事法認可を得ている米国ホロジック社製造(オリンパス株式会社販売)のThinPrep(シンプレップ)システムを採用しました。当院では、2名の細胞診専門医と3名の細胞検査士が業務にあたっております。今後とも患者さんの健康維持に貢献できるよう努力してまいります。

音楽のチカラ

写真家 平井慶祐 けいすけ



まんのう町出身の写真家の平井慶祐さんは、早稲田大学法学部卒業後、カナダへ游学。その後フリーの写真家として宮城県石巻市にて活躍中。

人間の笑顔をテーマに2nd写真集『YELLOW YOU(エール to キミ)』エールを贈る写真集などを出版されています。

震災から二年八ヶ月が経ちました。日ごとに、被災地と呼ばれる場所への感心や興味が薄れて行くと言う話をどこに行っても耳にします。風化とか、温度差と言う言葉で良く表現されるけれど、忘れることが悪だと云うのはちょっと違うと思うんです。四六時中忘れないでいると云うのはとても苦しい。彼女に振られたときの感情を、100%そっくりそのまま覚えていたとしたら、僕はご飯も喉を通らず、痩せ細って死んでしまいます。きっとその前に、脳ミソがパンクして気がどうにかなくなってしまふと思います。忘れるって人間の持つ素晴らしい能力なんです。その代わりに、時々ちゃんと思ひ出して欲しいと思っています。石巻

では、毎月十一日の月命日に、いろいろな場所でロウソクにあかりを灯してみんなでそれをゆっくり眺める活動をしている仲間たちがいます。思い思いに集まって来ては、近況を報告し合ったり、亡くした大切な人の想い出話に花を咲かせたりしています。ちゃんと思ひ出すタイミングをつくる、ステキな方法の一つですよ。

「忘れる」と「思ひ出す」で、もう一つ大きなキーワードとして僕が大切にしている事柄があります。それは「音楽」です。こちらで出来た音楽好きの友達が、震災直後、ラジオから流れて来た大好きな曲を聴いてその間だけすべてを忘れて心が開放されたとその時のことを熱っぽく語っ



てくれたことがありました。NHK特集ドラマにもなった女川災害FMの「ラジオ」でも、音楽のチカラが大きく取り上げられていたのを覚えている方も多いと思います。ですが、震災直後の混乱の中、音楽は必要無いものと言う認

識が被災地では一般的でした。もちろん目の前のことで手がいっぱい、瓦礫を撤去したり、水を汲みに行ったり、安否確認をしたり。それが優先事項だったので、音楽が二の次だったことは仕方ありません。東京や関西でもミュージシャンたちはライブ活動を自粛していました。今では石巻にも新しいライブハウスが生まれ、多くのミュージシャンたちがこの街でそれぞれの演奏をすることが出来るようになっていきます。もつと音楽のチカラで背中を押して貰いたい。

この街を盛り上げて欲しい。そんな理由からなのか、本当のところは分かりませんが、地元の子供たちが音楽イベントを主催したり、自由に楽器を弾いたり、週末になればあちこちのイベントで様々な音楽が奏でられていて、震災直後から比べると音楽的に自由になったなあと感じます。そして、少しづつ、辛いことを忘れさせてくれる音楽から、大切なことをちゃんと思ひ出す為の音楽にシフトしているように僕は感じています。ロウソクにあかりを灯すのと同じように、それぞれにとって大切にしておきたい過去にタイムスリップしたり、忘れないでいたい出来事をちゃんと忘れないでいようと思ひ直すキッカケだったり、音楽のチカラを借りて意識的にそういう時間を作っているんだろうなあ、ライブハウスで写真を撮らせて貰うときなんか感じるのです。風化した、忘れ去られることに危機感を覚えたり、忘れてしまっている自分を責めたりする気が、「風化はけしからん！」と怒ったり誰かを責めたりするよりも、「忘れてしまっていることが後ろめたい。」と落ち込んだり悩んだりするよりも、一緒に思ひ出すタイミング作ろっかと、誰かに声をかけてみて欲しいですね。ときに音楽のチカラを借りたりしながら。

ワクチン

薬剤部 今田 篤

予防接種は、人間が本来持つっている病原体に対する抵抗力（免疫力）を利用して、感染症に対する免疫をあらかじめ作り、感染の予防、発病の予防などを目的に行われます。

予防接種に使われるワクチンには生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイドがあります。

生ワクチンは毒性を弱めた微生物やウイルスを使用し作られます。不活化ワクチンに比べて得られる免疫力が強く免疫持続期間も長いですが、しかし弱毒化されているとはいえ生きている病原体を使うため、ワクチン株の感染による副作用反応症状を発現する可能性もあります。生ワクチンにはBCG、麻疹ワクチン、風疹ワクチンなどがあります。

不活化ワクチンは化学処理



などで死んだウイルス、細菌などを使用して作られます。生ワクチンより副作用症状が少ないのですが、免疫の持続期間が短いことがあり、複数回接種の必要なものがあります。不活化ワクチンにはインフルエンザワクチン、日本脳炎ワクチンなどがあります。トキソイドは、病原体が作る毒素のみを抽出し、ホルマリンなどで処理し、毒性を抑えたものを接種し、その毒素に対する抗体を作らせるものです。

混合されていない2種以上のワクチンを接種する場合には、通常生ワクチンは、副作

新任医師紹介



内科医師
藤田 拓郎
ふじ た たく ろう

用反応が起こるかもしれない時期を外すため4週間以上あけて次のワクチンを接種します。不活化ワクチン、トキソイドは、1週間でワクチンによる反応がほぼなくなるため

1週間以上あけて次のワクチンを接種します。ただ、同じ種類のワクチンを複数回接種する場合は、ワクチン毎に推奨される接種間隔が定められています。

今年の十月より勤務させていただいております内科の藤田拓郎と申します。内科の中でも特に腎臓内科を専門としています。山口県宇部市出身です。香川大学医学部卒業後、香川県で臨床研修をさせていただきました。昨年は香川大学の腎臓内科に入局し、そのまゝ一年半程、大学病院で勤務しておりました。

労災病院では、腎臓疾患以外にも糖尿病を多く診させていただきます。腎臓と糖尿病は密接な関係で、糖尿病性腎症が透析の原因の第一位です。腎臓を守るためには糖尿病の進展を防ぐことが重要です。こう見えても高校では柔道をしており、腹筋が6つに割れるほど非常に引き締まった体をしておりましたが、大学からは運動を離れ見る影もなくなりました。患者様に食事、栄養指導をする前に自分の体を引き締めようと考える毎日です。考えるだけで実践は十年近くできておりません。

そんな私ではありますが、今後ともよろしく願いいたします。

10月より産婦人科専攻医として赴任させて頂きました。卒業3年目の岡本和浩と申します。出身は広島県尾道市で、中高は愛媛県松山市の愛光学園で6年間過ごし、大学は宮城県仙台市の東北大学を卒業し、初期研修は大阪府岸和田市で2年間勤務、本年度より岡山大学産科婦人科学教室の門を叩き、10月から当院で勤務させて頂いております。半人前ではありますが、やる気と体力には自信を持っております。少しでも多く患者様のお役に立てるよう弛まぬ努力を続けていきますので、何卒宜しくお願い致します。

話は変わりますが、皆さんは東北の地に足を運んだことはありますか？

せっかくですので、6年間過ごした仙台のお国自慢をさせて頂きますと、杜の都とい



産婦人科医師
岡本和浩
おかもと かず ひろ

われまずこの町は仙台藩祖伊達政宗の植林政策によって仙台城下町に植えられました屋敷林の美しさから、杜の中に町ができたように見えることからその異名が定着したといわれています。

今でも仙台の都市イベントは「杜」を想起させる定禅寺通りや勾当台公園を好んで開催されており、毎年12月には青葉通りと定禅寺通りのケヤキ並木に取り付けられた数十

万のイルミネーションライトが点灯するSENDAI光のページェントといわれるイベントが開かれ、多くの方を惹

きつけております。仙台には日本三景で知られる松島もあり、芭蕉が訪れた際にはそのあまりの美しさに句を詠むことができず、またアインシュタインは「どんな名工の技も、この美しさを残すことはできない」と言ったとされています。

今年日本シリーズを制した楽天イーグルスのホームでもあります。大都市でありながら、広瀬川が流れ、並木道が美しい緑豊かなこの地を是非一度ゆっくり訪れてみてはいかがでしょうか。

香川労災病院のあるまち



丸亀城



中津万象園

放射線診断科副部長
安賀 文俊

はじめまして。平成二十五年十月より赴任しました。専門は画像診断・核医学です。

生まれも育ちも香川県で、高校三年間は丸亀城の近くの高校に通いました。平成十四年に大阪医科大学を卒業し、

関西のいくつかの病院で勤務していました。丸亀つながりのご縁があり、三年前から香川県で勤務する機会を得て、このたび香川労災病院でお世話になることになりました。

私の専門としている画像診断は、基本的に出会ったことのない方々の画像を眺めて、頭の中で勝手な想像を膨らませて、あたかも実際に体の中を見てきたかの様なレポートを、オーダー頂いたドクターの皆様宛に作成する仕事です。リアルな色彩の3Dテレビが家電量販店で売られているこの時代に、二次元の白黒画像

で勝負するのは寂しい時もあります。しかし、読影室の片隅で私の頭に思い浮かんだ妄想が、診断・診療の一助になることを夢見て(時々ホントに寝てる?)頑張りますので、よろしく願います。

臨床研修医
大西 啓右

10月より赴任しました大西啓右と申します。初期研修医2年目として労災病院で研修させていただいております。

4〜9月までは坂出市立病院で研修させていただき、再度この丸亀・坂出周辺の医療に携わることになりました。私は香川県出身で一度県外に出た時期もあったのですが、香川に帰ってきて香川のよさを再認識することができました。帰ってきてうどんブームが起ったことには大変驚かされました。地元民でありながら、うどん屋に行く習慣な

お知らせ

クリスマス ロビーコンサート

日時

平成25年12月12日(木)
15時〜16時

場所

香川労災病院1階
外来ロビー

内容

世界うたの旅
歌とピアノのコンサート

出演

ソプラノ 渡辺りか先生
ピアノ 大山まゆみ先生

参加 無料

どなかった私ですが、友達に誘われた結果、うどん屋巡りが好きになり、今ではうどん通になったかのような立ち振る舞いをするようになりました。また都会とは違い非常に住みやすく県民性も瀬戸内の気候のような穏やかさに故郷への思いを一層強く感じています。故郷で医療に携わることができ、非常に喜ばしく思っております。皆様のお役にたてるよう一生懸命がんばりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

強調表示ってなに？

管理栄養士 高畑 美紀



● 労災病院周辺で見られる鳥 ●

スズガモ

主任薬剤師・吉村正則

冬鳥として見られる。飛んだ時の羽音が金属質で鈴の音に似ていることから名付けられた。どちらかと言えば、波の静かな内海を好むが、市内では大きな溜池で見られる事が多い。

「高〇〇」、「〇〇入り」や「低〇〇」、「〇〇控えめ」等といった表示を見て製品を選んだことはありますか？
このように、栄養成分が補給できる旨の表示、又は適切な摂取ができる旨の表示をすること「強調表示」といいます。強調表示をする場合は、定められた基準があります。

例えば、エネルギーは、食品100g当たり（飲用に関する食品なら100ml当たり）5kcal未満であれば、エネルギーの表示ができます。
糖質は、食品100g当たり（又は100ml当たり）2・5g以下であれば「低糖、糖分控えめ」の表示ができます。ノンシュガーといった表示では、砂糖は含まれません。

がコーンシロップや果糖といった甘味料が含まれている場合もあります。
脂肪は、食品100g当たり（又は100ml当たり）0・5g未満であれば「脂肪ゼロ」の表示ができます。「低脂肪」の場合は食品100g当たり3g以下（又は飲料100ml当たりの場合1・5g以下）となります。コーヒー飲料には、コーヒー以外にミルクが入っているものもあります。自分でミルクや砂糖を加えて飲む場合とは違い、どれくらい含まれているか



りません。

近年では、ノンカロリー、カロリーオフなどと表示した菓子や飲料、さらに糖質ゼロのアルコール飲料や糖質ゼロのビール、テイスト飲料など数多くの食品が出回っています。どれも必ずしも全く含まれないというわけではありません。100ml又は100g単位での表示が多く、飲料水なら1本の容量に伴い含有量も多くなるので、多飲すると血糖値や中性脂肪が増加することもあり注意が必要です。
表示基準を知っていると、強調表示に惑わされず食品を選ぶことができますね。



編集だより

患者サービス向上委員会
奥村誠子

温かい飲み物がおいしい季節になりました。この時期、風邪やインフルエンザの予防には、手洗いやうがいだけでなく、十分な栄養と休養をとり抵抗力をつけておくことも大切です。

さて、「いぶき」もご愛読いただいた皆様や多くの方々のご支援のおかげで、第50号の発刊を迎えることができました。編集部では、皆様の生活に役立つ身近な情報をお届けできるよう頑張っています。これからも「いぶき」をよろしく願い致します。